



都立南大沢学園通信

～情熱・誠実・実践～

東京都立南大沢学園
校長 井上 美保
令和5年6月1日発行
6月号

主体的に生きる 主体的に働く

校長 井上 美保

新型コロナの5類移行から約1カ月・人の集まる場所は賑わいを見せ、コロナ禍前の日常が戻りつつあると感じます。廊下ですれ違いざまに挨拶する生徒の顔には、少なからず笑顔が戻ってきたように感じます。

感染対策は自主的に自らの判断で。マスクの着脱も主体的な選択を尊重し、個人の判断で。生徒の皆さんは、学校で決められた一定のルールに従って、時と場所に応じた判断ができるように。なかなか難しいですね。日頃から、多くのことに挑戦し、さまざまな問題を解決する経験を通して、自らできることを増やして行ってください。

さて、高等部就業技術科設置校は、専門的な職業教育を行う学校として、職業人として必要な資質・能力を育成しています。その中でも本校では、コースの授業の中で、どんな職業に就こうとも共通して必要な働くための資質・能力と態度を養うことを目的としています。変化・進展する社会の中で、デジタル化やAIの普及などにより私たちの働き方が大きく変わったとしても、今もなおもち続けていたい変わらない力をさらに整理していきたいと思っています。

振り返れば、私は、22歳で仕事に就いてから今に至るまで、何十年もの長い期間、働き続けています。仕事を続けていくための環境が整っていたわけではありませんし、何もかもが中途半端で仕事のスタイルが確立できていたわけでもありません。良いこともたくさんあれば、うまくいかないこともそれ以上にたくさんありました。それでも働き続ける理由として、生活をするために収入が必要であることは、揺るがない事実ではありますが、決してそれだけではありません。仕事に対するやりがいや責任、社会とのつながりや人との出会い、仲間とのコミュニケーション、人間としての向上心など。羅列すれば数限りないです。

長い人生。今までと同様に働きながらの生活が続くのだと思います。これからも充実した日々を送るために、一週間後・一か月後そして一年後の自分への御褒美を用意し、脳内を刺激しながら働くためのモチベーションを保ち続けていきたいと思っています。

働く意欲

主幹教諭 田島 麗子

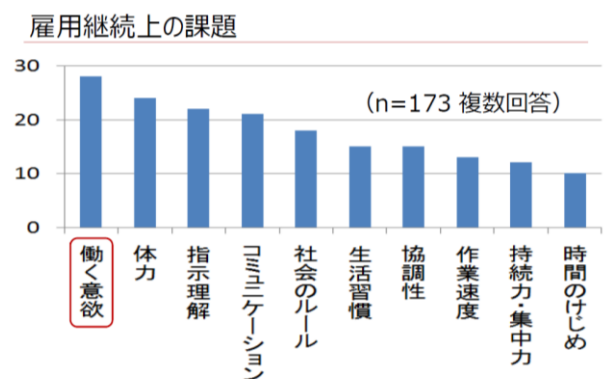
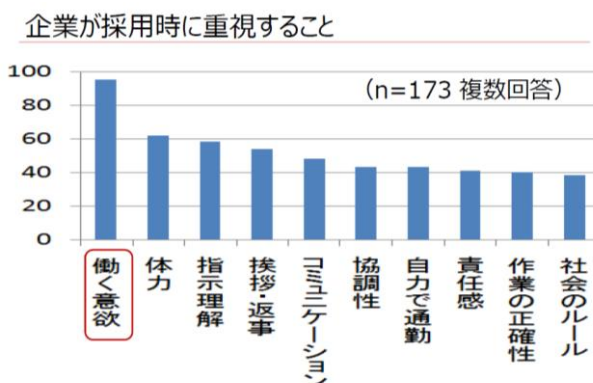
11期生（令和4年度卒業生）が社会人としての生活を始めて、2か月が経ちました。今の時期、初回定着支援訪問として、進路担当教員が11期生の就労先企業等に順次伺っているところです。それぞれの進路先で、慣れないながらも一生懸命業務に取り組んでいる姿、新しい人間関係を築いている姿などをみることができ、とても嬉しく思います。

在学中の実習は1～2週間ですが、実際の仕事は、そうした短期間のみのことではありません。働き続けるためには、自身の中で、「働く意欲」を維持していく必要があります。

下のグラフは、「企業が採用時に重視すること」と「雇用継続上の課題」についての調査結果です。いずれも、「働く意欲」が最多の回答となっており、企業から選ばれるためにも、そして、就労後に安定して働き続ける上でも、「働く意欲」が大切であることが分かります。資料は2008年のものではありませんが、今、様々な企業を訪問して企業担当者から話を伺う中で、求められている力について、調査当時と大きく変わりが無いことを感じます。

就労を目指すときに、例えばパソコンの入力技術を向上させることや、機材を完璧に使いこなすことなど、仕事上の技能のみを重視しがちですが、それらのことは、企業に入ってからでも十分能力の向上が望めます。生徒の皆さんには、在学中に、毎日規則正しい生活を自律的に送ること、必要な体力、挨拶や返事、適切なコミュニケーション、協調性など、働くために必要な基礎・基本となる力を確実に身に付けてほしいと思います。本校の5つのコースでは、どのコースでも共通して、働くための基礎・基本を身に付けられるよう指導しています。

それと共に、自分は何のために働くのか、働くことでどのような生活を送れるようになりたいのかなどについて、自分で考えたり、保護者の方と話したりしてほしいと思います。自分なりの「働く理由」を見つけ、自分の軸としてもつことができると、その思いは「働く意欲」となり、就労後も皆さんを支え続けてくれるはずですよ。



障がい児の保護者と支援者のための就労支援ガイド 沖縄県 (2008)

障がい児の保護者と支援者のための就労支援ガイド 沖縄県 (2008)

※今年度から学園通信は、UDフォント(ユニバーサルフォント…読みやすい、判別しやすい書体)を使用しています。